

# 令和5年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 算数科

## 改善の重点

- ① 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を明確にした単元及び授業を構想すること。
- ② 授業のねらいに則した評価規準及び評価方法を適切に設定すること。
- ③ 資質・能力の育成に向けて1人1台端末を効果的に活用すること。

## 1 設定理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編第4章「指導計画の作成と内容の取扱い」において、「算数科の指導に当たっては、(1)「知識及び技能」が習得されること、(2)「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、(3)「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要である。」と示されている。また、(3)については、「算数科の目標」において「数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。」と示されている。

数学的に考える資質・能力を明確にした単元及び授業構想の中で、児童が自ら問いをもち自立的に考えること自体の楽しさ、友だちと協働的に学び合うことで自分の考えや集団としての考えが広がったり深まったりすることの楽しさ、自分の説明で友だちが分かってくれた楽しさ等を実感し、児童が数学的活動を楽しめるようにする機会を設けることも大切である。

指導と評価の改善については、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、評価の場面や方法を工夫して、児童の学習過程や成果を評価すること、教師の指導改善につなげること等が必要である。また、資質・能力の育成に向けた1人1台端末の効果的な活用については、算数科の特質を踏まえ、より一層計画的に取り入れることが必要である。

これらのことを踏まえ、「新大分スタンダード」に基づき、問題解決的な展開の授業を構想し実践する中で、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を進め、数学的に考える資質・能力を、児童一人一人に育成していくことが大切である。

## 2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 単元など内容や時間のまとまりの中で児童の学習状況を適切に評価できるよう、評価場面や評価規準及び評価方法等を記載した指導と評価計画を作成すること。
- ② 学習指導案に「予想される『努力を要する状況』の児童への手立て」を記載すること。
- ③ 資質・能力の育成に向けて1人1台端末を効果的に活用していくこと。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ② 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例（国立教育政策研究所）
- ③ 義務教育課HP「早わかり！単元計画の作成手順」
- ④ 義務教育課HP「算数・数学の学習で説明する力を伸ばす基本形」
- ⑤ 文科省HP「StuDX Style」ウェブサイト
- ⑥ 文科省HP「算数・数学科の指導におけるICTの活用について」